

ごみダイエットで楽しく暮らす

～無理をせず、身近な一歩から～

ごみ減量シンボルマーク
かーるちゃん



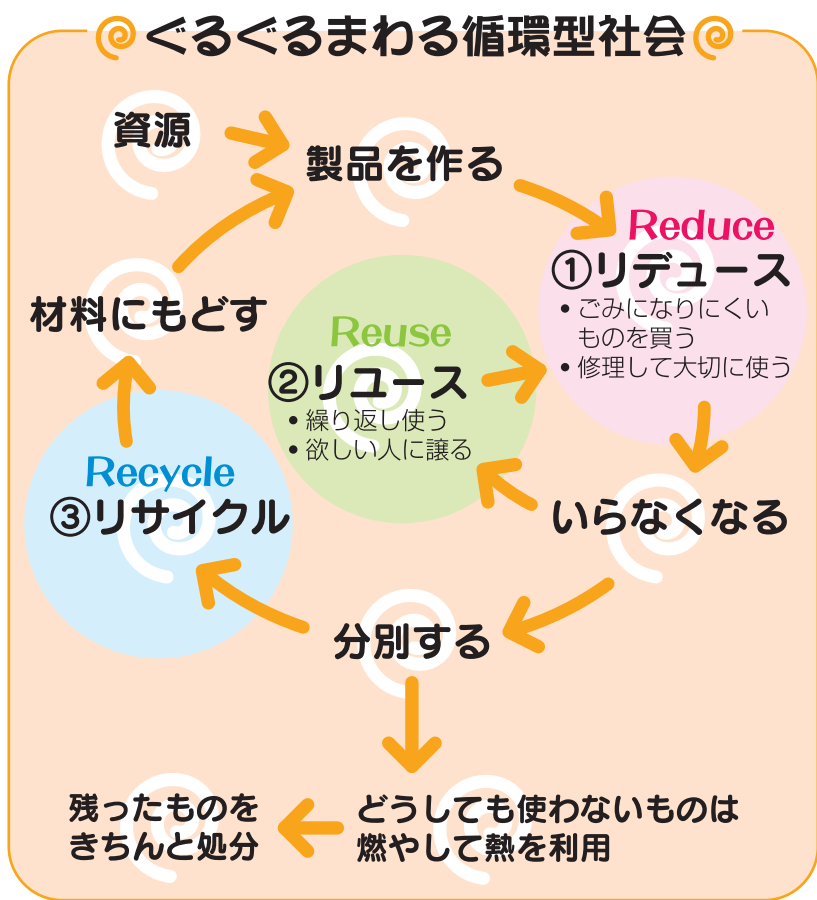
市のごみの量は、平成17年の家庭ごみ有料化実施などで、減少しています。しかし今後も人口の増加が予想されており、それとともにごみの量が増える可能性があります。一人ひとりが、さらなるごみ減量に取り組みましょう。

3Rでゴミのない循環する社会をつくらう！

市の1日のごみの量は、2000トで、教室を入れ物にする51教室分、年間にする73万4000ト、ヤフードーム2杯分になります(平成19年度ごみ処理計画)。また、平成19年度のごみ処理にかかる経費は、222億円が見込まれていますが、ごみの量が増加すれば処理経費も増加します。

ごみの減量と処理経費削減のため、3Rの実践に取り組む、循環型社会を目指しましょう。3Rとは、リデュース(ごみの発生抑制)・リユース(ごみの繰り返し利用)・リサイクル(再生利用)の3つの頭文字Rをとつた略称です。

まずごみの発生抑制(リデュース)から取り組み、次に使えるものを繰り返し使うこと(リユース)で、ごみの減量になります。最後に、どうしてもいらなくなったものは、資源として再生利用(リサイクル)します。



私たちにできることって何だろう？

- 私たちにできること
普段の生活を見直し、ごみの減量に取り組んでみましょう。
- ①リデュース
・必要なものだけを買う
・いらぬ包装を断る
・マイバッグ持参で買い物へ行く
・修理して最後まで使う
- ②リユース
・ごみは残さずに食べる
・詰め替え製品を利用する
・使わないものは譲る、譲ってもらう
- ③リサイクル
・ごみの分別を行い、資源として再生利用する
・生ごみは、生ごみ処理機を活用し、たい肥にする

福岡市環境シンボルキャラクターエコッパ



お買い物を考え直せば、お金の節約にもなるよ！

マイバッグはごみ減量の第一歩

市内だけでも年間3億枚以上のレジ袋が使用され、そのほとんどがごみになっていきます。レジ袋の削減は、ごみの減量だけでなく、材料となる原油の節減になります。マイバッグ持参によるレジ袋の削減に取り組んでいる校区を紹介します。

宮竹

宮竹公民館では、4月から「リサイクル手芸サークル」を開設しています。古布を使い、マイバッグの製作に力を入れています。



▲下山照子さん(右)と西岡敏枝さん(左)

「いらぬ布地が無駄にならないようにすみました」と会員の西岡敏枝さん(72)。また、下山照子さん(75)は「自分で作るの、好みの大きさにできるのがいいですね」と話していました。

横手

ごみ減量・リサイクル推進のための研修会が6月21日に横手公民館で行われました。校区の各団体の代表者が参加し、古紙回収やマイバッグの利用推進などについて話し合いが行われました。



参加者の自治協議会長村中次男さん(62)は「マイバッグの利用を広めるには、市民・企業・行政が一体となって取り組むことが大切だと思う」と話していました。

南区で活動している人やグループ

全国で環境カウンセリング！

長住在任の藤本倫子さん(84)は、地球温暖化に危機を感じ、生ごみを燃やさずに処理できれば二酸化炭素の排出抑制ができるのではないかと考えました。70歳から勉強強をして酵素で生ごみを処理する「くうたくん」を発明するとともに、全国の役所や企業を自ら訪問し、ごみ減量の必要性を訴えています。

また、「くうたくん」の売上金を(財)日本環境協会に寄付し、同協会は「藤本倫子環境保全基金」を創設して、環境教育や保全を實踐している団体に資金の助成を行っています。



子どもたちからのお礼の手紙は宝物

こうした活動が認められ、藤本さんは現在、環境省が認定する環境力ワンセラーとして、全国の学校や企業を忙しく飛び回っています。

ラブアース・クリーンアップ

『ラブアース・クリーンアップ』が6月10日に行われました。16回目の今年、南区では、26団体、約5000人の市民が集まり、河川敷や公園などで、額に汗しながら清掃に取り組みました。

区でフリーマーケット開催

区は、毎月第2・4土曜日に区役所駐車場フリーマーケットを開催し、ごみ減量推進を図っています。出店には、事前の申込みと参加費が必要です。また、

天候や業務の都合により、中止する場合があります。
※7月は選挙のため中止。
問合せは区総務課へ。
☎559・5005
☎561・2130